

学部・講義：幼児教育（保育）の道を、自ら学び、考えながら 進んでいけるために

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

2. 受講学生

1回生：13名（幼年教育サブコース6名、
小学校サブコース7名）
うち、保育士コース以外の学生1名

3. 授業の工夫

(1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。
(2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

4. 授業評価の方法と結果

14回目授業時にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、最終授業日に持参。

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
- 4：ややそう思う（よい）
- 3：どちらともいえない（ふつう）
- 2：あまりそう思わない（あまりよくない）
- 1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	4.6
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.6
重要なことを強調したか	4.8
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.9

授業への熱意・工夫が感じられたか	4.8
内容・レベルは適切だったか	4.3
課題は有益なものだったか	4.5
考えが培われたり得るものがあったか	4.8
学問をする雰囲気は保たれていたか	4.6
教職に就くうえで有益だったか	4.9

5. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業の前半では、保育・幼児教育の制度・内容・歴史を扱っている。とりわけ平成27年からスタートした「子ども・子育て支援新制度」に基づく新たな保育の仕組みは詳しく解説をしている。私が愛媛県や県下市町の新制度の策定や実施に携わっているため、県下の保育政策・制度の現状や課題、最新の動向についても触れるようにしている。アンケートの自由記述には、「自分の中の幼児教育の知識が増え、視野が広がったように思います。以前より、周囲のことに目を向け、考えるようになりました」などの記述が見られた。また、全国だけでなく、愛媛県や県下市町の保育動向を踏まえて授業を進めることは、将来の職業生活を具体的に思い浮かべながら学ぶことにつながるようで、「少しだけ夢に近づいたように感じました」との記述も見られた。

また、保育の歴史を概説する中で、国の重要文化財である宇和町の「開明学校」についても、その成立過程や歴史的意味、保育との関連等を紹介している。アンケートの自由記述には、「11月に実際に見学に行きました。学校の歴史に興味湧き、…中略…学びを深めることができました。他にもこのような訪れることができる場所があれば教えていただきたいです」など、主体的に学ぼうとする姿勢の高まりが見られた。